

# 令和4年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

羽曳野市立羽曳が丘小学校

## ■この調査は

義務教育の機会均等とその水準の向上のために、児童生徒の学力や学習の状況を把握・分析して教育施策の改善を図るとともに、一人ひとりの児童生徒の学習の課題を把握して指導改善につなげるために実施しました。本校の子どもたちの課題について共通理解を図り、学校・家庭・地域が一体となって学力・学習状況の改善に取り組めるよう、結果の概要をお伝えします。

## ■調査の結果は

対象が小6と中3、教科も国語／算数・数学／理科に限られています。したがってここに示す結果は児童生徒の「学力の特定の一部」であることをご理解ください。(英語・理科は、3年に1度の調査となります。)

## 1 調査結果について

### ■学力調査結果からみえる本校の子どもたちの姿

- ・国語・算数は、全国の平均正答率を上回っており、理科は全国の平均正答率とほぼ同じとなります。
- ・国語では、「読むこと」「言葉の特徴や使い方に関する事項」の分野に優れ、特に「人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりする」ことが、大きく全国の平均正答率を上回っています。一方、「書くこと」の分野においては全国の平均正答率を下回っており、「文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整える」ことに課題がみられます。
- ・算数では、「数と計算」や「データの活用」の分野に定着がみられ、特に「目的に応じて数量の関係に着目し数の処理の仕方を考察する」や「目的に応じてデータの特徴や傾向を捉え考察する」ことがよくできています。一方、「図形」分野は苦手傾向にあり、特に「図形の意味や性質を基に作図するプログラムをつくる」ことに課題がみられます。
- ・理科では、「地球・生命を柱とする領域」に定着がみられ、特に「観察などで得た結果を分析・解釈する」、「自然の事物・現象を理解する」ことがよくできています。一方、「エネルギー・粒子を柱とする領域」では「器具の理解」や「日光の進み方」についての定着に課題がみられます。

### ■質問調査からみえる本校の子どもたちの姿

#### ・よい傾向がみとめられる項目

家庭での正しい生活リズム、自己肯定感、いじめへの認識、集団活動や学習活動への意欲ややりがい感、友達の考えを受け止めるなど、多数の項目において全国より良い傾向がみられます。特に、「自分にはよいところがある」、「読書が好き」、「国語の勉強は好き」などにおいては、肯定的回答が全国平均より大きく上回っています。

#### ・課題となる項目

「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる」の肯定的回答が全国に比べやや低い傾向にあります。また、ICT機器の使用頻度について「ほぼ毎日」と答えた割合が、全国に比べ少し低い数値を示しています。

## ■児童質問紙と学力調査結果とのクロス集計結果からみえる本校の子どもたちの姿

### ・ 正答率と特に強い相関関係があるという結果があらわれている項目

- 「1日あたりどれぐらいの時間、テレビゲーム等をしますか。」に対して、時間数が少ないほど、学力調査結果が高い傾向にあります。
- 「先生はあなたの良いところを認めてくれる」に対して、肯定的回答者ほど学力調査結果が高い傾向にあります。
- 「学校に行くのは楽しい」に対して、肯定的回答者ほど学力調査結果が高い傾向にあります。

## 2 これからの取組について

### ■学校で取り組んでいくこと

- ・ I C T機器を活用し、主体的・対話的で深い学びのできる授業づくりに取り組みます。
- ・全学年に共通する基本的な視点と言語活動「話す・聞く・読む・書く」(4技能)の系統的かつ統合的な指導を中心にした授業づくりを進めています。特に、本校のテーマである「書く力」については、重点を置いて研究しています。
- ・国語では、根拠や意図を明確にして自分の考えを書いたり、伝えたりする学習活動を進めていきます。
- ・算数では、具体物・半具体物を操作しながら図形を構成したり分解したりして、図形についての見方や感覚を豊かにする学習活動を進めていきます。
- ・理科では、習得した知識を実際の自然に事物・現象と関連付けて説明できるようにする学習活動を進めていきます。
- ・多くの教員が児童と関わるような取組みを進めていきます。

### ■家庭において取り組んでいただきたいこと

- ・ゲームやテレビ、スマートフォン等の使用に関わる家庭ルールを決め、しっかりと守っていくように声かけをお願いします。
- ・朝食の摂取、睡眠時間の確保、家庭での読書や学習など今後もお子さんの安定した生活習慣づくりをお願いします。